

報告書〔1〕分析結果及びフローシート

1. 土壌試料(1.ガドミウム)

分析実施機関名		機関コード		国際的な認証の取得 注1)	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (JIT'25) 4. なし
分析主担当者名		分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(試料数)	検体

注1)複数回答可

分析結果 (mg/kg) 注2)		
1回目	2回目	3回目

分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

注2)3回の分析結果を有効数字3桁で記入する。なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。

<ル-ム原子吸光法>
試料の適量
硝酸10ml
塩酸20ml
液量が約半分まで
加熱
硝酸20ml
液量が約20mlまで
水50ml
加熱
ろ紙5種B
ろ液・洗浄
ろ液・洗浄
洗浄水:塩酸(1+10)
加熱 2~3mlまで
水
100mlとする
(試験溶液)
(試験溶液の希釈)
定量

<溶媒抽出-ル-ム原子吸光法>
試験溶液の調製
(フレイム原子吸光法と同じ)
適量を分液漏斗へ
くえん酸水素アンモニウム溶液(20%)10ml
アンモニア水
pH9~9.5とする
ジエチルエーテル/ヘキサン酸ナトリウム溶液(5%)10ml
酢酸ブチル10ml、2回
抽出(2回抽出)
酢酸ブチル層
加熱 酢酸ブチルが揮散するまで
硝酸4ml
過塩素酸2ml
加熱 ほとんど乾固するまで
塩酸(1+10)
25mlとする
定量

<電気加熱原子吸光法>
試験溶液の調製
(フレイム原子吸光法と同じ)
分取
硝酸ハニウム溶液
定量(標準添加法)

<ICP発光分析法>
試験溶液の調製
(フレイム原子吸光法と同じ)
(溶媒抽出)
(試験溶液の希釈)
定量

<ICP質量分析法>
試験溶液の調製
(フレイム原子吸光法と同じ)
(試験溶液の希釈)
定量

試験溶液の調製

<分析法等>

分析法	1.ル-ム原子吸光法 2.電気加熱原子吸光法 3.ICP発光分析法 4.ICP質量分析法 5.その他()
試料の分取量	()g
試験溶液の調製に用いた酸の量	硝酸 ()ml 塩酸 ()ml 過塩素酸 ()ml
試験溶液の量(定容量)	()ml

<溶媒抽出>

溶媒抽出	1.実施する 2.実施しない
試験溶液の分取量	()ml
溶媒の種類 抽出回数 溶媒の使用量	1.酢酸ブチル 2.MIBK 3.キシレン 4.その他() ()回 ()ml/回
最終の定容量	()ml
最終溶液の液性	1.硝酸酸性 2.塩酸酸性 3.有機溶媒

<原子吸光法>

フレイム法 試験溶液の希釈	1.希釈する 2.希釈しない 1.の場合:希釈倍率()
電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 モリブデンの添加	()μl 1.自動注入装置 2.手打ち 1.黒鉛炉 2.耐熱金属炉 3.その他() 1.添加しない 2.Pdを添加 3.Pd以外の添加 添加元素等()
原子吸光分析装置 バックグラウンド補正 測定波長	1.行わない 2.重水素ランプ 3.偏光ビーム 4.その他() ()nm

<ICP発光分光分析法>

試験溶液の希釈	1.希釈する 2.希釈しない 1.の場合:希釈倍率()
ICP発光分光分析装置 装置の型式 バックグラウンド補正 超音波ネブライザの使用 測定時間 測定波長	1.波長走査(シーケンシャル) 2.波長固定(マルチ) 1.行う 2.行わない 1.使用しない 2.使用する ()秒/元素 ()nm

<ICP質量分析法>

使用した水	1.蒸留 2.イオン交換水 3.その他()
チューニングに用いた元素	1.Li,Y,Ti 2.Li,Co,Y 3.Co,Y,La 4.Be,Y,Tl又はBi 5.Y,La,Tl又はBi 6.その他()
測定質量数	()

<検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準	1.検量線法 2.標準添加法 3.内標準法 3.の場合の内標準物質 1.イットリウム 2.インジウム 3.ビスマス 4.その他()
検量線の作成	作成点数() 作成範囲()~() 注3) 単位:1.量(μg) 2.濃度(mg/l) 最高濃度の指示値() 空試験値(指示値)()
試料の指示値	()

注3)測定する溶液中の量又は濃度で示す。

<分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点>

試験溶液の調製について	-----
測定操作について	-----
分析全般について	-----

<計算式>

--

